

登録コード	E2010900	開講年度	2026			
授業科目	日本文学基礎				担当教員	藤原 崇雅
英文授業名	Introduction to Japanese Literature				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生
講義室	教育E504講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観			中等教育の学習活動を担うために必要な知見を踏まえ、国語を尊重する使命感や倫理観の獲得に対する意欲を高め、よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を続けることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			中等教育における国語科の授業を遂行するため、文学的な文章の内容や構造を理解し、具体的な方法を通じて実践場面で活用できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	日本文学（古文、漢文、近現代文学）の作品群を総合的に把握するに際して、文学を取り巻く文化的諸要素や自然のありようを取り込みながら立体的に文学作品が捉えられる。 中学校・高等学校学習指導要領に示された資質・能力の育成に資する柔軟な理解と教材観がもてる。					
(5)授業計画	第1回 ガイダンス、小中高の学習者の発達段階と読書行為 第2回 中学校1年生の古文（作者未詳「竹取物語」など） 第3回 中学校2年生の古文（清少納言「枕草子」、作者未詳「平家物語」、兼好法師「徒然草」など） 第4回 中学校3年生の古文（松尾芭蕉「奥のほそ道」など） 第5回 中学校1年生の漢文（韓非子「矛盾」など） 第6回 中学校2年生の漢文（石川忠久「漢詩の風景」など） 第7回 中学校3年生の漢文（孔子「論語」など） 第8回 中学校1年生の近現代詩歌（谷川俊太郎ほか「詩の世界」など） 第9回 中学校2年生の近現代詩歌（正岡子規ほか「短歌を味わう」など） 第10回 中学校3年生の近現代詩歌（河東碧梧桐ほか「俳句を味わう」など） 第11回 中学校1年生の近現代小説（米倉育加年「大人になれなかった弟たちに……」安東みきえ「星の花が降るころに」、ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」など） 第12回 中学校2年生の近現代小説（椎名誠「アイスプラネット」、三浦哲郎「盆土産」、太宰治「走れメロス」など） STEAM教育対応の授業回 第13回 中学校3年生の近現代小説（井上ひさし「握手」、魯迅「故郷」など） 第14回 小中高における百人一首教材と散らし取り大会、授業アンケート 教育実習等を理由とした欠席分については、欠席者と相談の上、補講を行う。 大学の制度利用により担当者が不在になる場合がある。その場合は、実施できない分の授業を不在でない期間に集中で実施する。集中実施回のうち、規定時数を超えない分の回をハイフレックス型とする。					
(6)成績評価の方法	1．授業の達成目標1の「言語教育の実現を目指して日々の努力と研鑽」に関する達成度を測るため、毎回の授業で実施する授業の小テストおよび振り返り（eALPS,百人一首大会）：55点 2．授業の達成目標2の「内容や構造を理解」および「専門的な内容を具体的な方法を通じて理解し実践場面で活用」に関する内容理解を測るためのレポート：45点 合計100点					
(7)成績評価の基準	秀：よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を高度に行っている。また、文学的な文章の内容や構造を高度に理解し、具体的な方法を通じて実践場面で高度に活用できる。 優：よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を正確に行っている。また、文学的な文章の内容や構造を正確に理解し、具体的な方法を通じて実践場面で正確に活用できる。 良：よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽をおおよそ行っている。また、文学的な文章の内容や構造をおおよそ理解し、具体的な方法を通じて実践場面でおおよそ活用できる。 可：よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を一部行っている。また、文学的な文章の内容や構造を一部理解し、具体的な方法を通じて実践場面で一部活用できる。 不可：よりよい文学的な文章の教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を行っていない。また、文学的な文章の内容や構造を理解しておらず、具体的な方法を通じて実践場面活用できない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	事前学習：eALPSにアップロードされた事前学習用のファイルを閲覧しておくこと。 事後学習：eALPSにアップロードされた事後学習用のファイルを閲覧しておくこと。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	授業中は、受動的に授業を受講するのではなく、個人追究やグループワークなどの言語活動に主体的に参加すること。また、授業前後に必要な学習を相当時間数行うこと。 本授業は出席しているだけでは単位は認定されない。					

(10)質問，相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また，オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は，その他の時間でも可。 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス： fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	授業内で適宜指示する。
【参考文献】	石丸憲一編『Chromebookでつくる中学校国語の授業』明治図書、2022 上記に加え、授業内で適宜指示する。